

## 長町武家屋敷界限

長町武家屋敷界限は、保存状態のよい武家屋敷が並ぶ区域である。石畳の通りと土塀は、金沢における、江戸時代（1603-1867）の裕福な武士が居住していた区域の特徴である。

絵のように美しいこの区域の水路と見事に復元された邸宅を探索すれば、当時の武士たちの暮らしがわかる。

江戸時代の、加賀藩（現在の石川県とその周辺）は、極めて裕福だった。この富のおかげで、中流階級の武士たちでさえも、広く美しい家を建てることができた。この歴史的な長町武家屋敷界限は、かつて、このような武家家族の拠点だった。藩を統治していた前田家は、家臣たちを金沢に住まわせていたため、この市周辺では似たような区域がよく見られた。

1869年に版籍奉還が行われると、武士たちは財源と権力を失い、結果的に家を捨てるか売るかを迫られた。現在では武家屋敷と土地のいくつかが、一般公開されている。

見どころの一つに、前者の裕福な前田家の家臣、野村家の邸宅がある。現在展示されている家財には、武士の甲冑一式などがある。この資料館は、中庭にある静かな水流と滝を模した落水が評価され、ミシュラン・グリーンガイドでは2つ星に認定されている。

長町に居住したすべての武士たちが、このように裕福だったわけではない。足軽資料館にある、修復された足軽屋敷2棟では、それとは対照的な下流武士たちの質素な生活を表している。